



多文化共生と「やさしい日本語」

さまざまな国籍、民族や文化的背景をもった人々が、互いの違いを認め合い、尊重し合いながら、同じ地域社会の住民として、共に地域づくりをしていこうとするのが多文化共生です。ここでは、共に暮らしていくために欠かせない日本語の取り組みを紹介します。

外国人市民の現状

	外国人登録者数	総人口	割合
平成19年(2007)	9,700人	201,954人	4.80%
平成20年(2008)	10,205人	203,716人	5.01%
平成21年(2009)	10,205人	204,469人	4.99%
平成22年(2010)	8,914人	202,999人	4.39%
平成23年(2011)	8,440人	202,412人	4.17%

(各年3月末現在)

経済危機や昨年の東日本大震災を背景に、鈴鹿市における外国人登録者数は平成20年10月の1万491人をピークに、平成23年12月末では8,185人に減少しています。

減少傾向ではありますが、本市の外国人登録者数は全国的にも非常に多く、日本人と外国人が地域社会で協力し合い、安心して暮らすためには、コミュニケーションが大事です。

共通する言語は「やさしい日本語」

世界で共通する言語は、英語というイメージがあります。しかし、鈴鹿市在住の外国人のうち、英語を公用語としている外国人は約 550 人であり、外国人市民全体の7% 弱にすぎません。鈴鹿市には、ポルトガル語を筆頭に、46 の言語を話す人々が生活しています。

そのような状況の中で、日本人市民と外国人市民にとって共通する言語は日本語、それも生活や仕事を通じての「やさしい日本語」になります。

鈴鹿市の外国人市民の公用語

① ポルトガル語	約3,500人	約43%
② スペイン語	約1,700人	約21%
③ 中国語	約1,050人	約13%
④ 英語	約550人	約7%
⑤ タイ語	約170人	約2%

※上位5番目まで

「やさしい日本語」の例

こちらの申請用紙に必要事項の記載をお願いします → この紙に名前と住所を書いてください
災害時要援護者への配慮をお願いします → 困っている人を助けましょう

研修会の取り組み

鈴鹿市では昨年12月に、市内に4カ所設置されている日本語教室のボランティアスタッフと市職員を対象に、名古屋大学から講師を招いて、豊田市での外国人住民の現状や「とよた日本語学習支援システム」についての研修会を実施しました。(写真①)

また同じ12月に、職員を対象とした「やさしい日本語」による窓口対応の研修を(財)鈴鹿国際交流協会との共催で実施するなど、「日本語」を多文化共生のキーワードの一つとして推進しています。(写真②)



写真①

今後も鈴鹿市では、昨年3月に策定された『鈴鹿市多文化共生推進指針』に基づいて、関係機関や関係団体、地域と連携しながら、日本語による外国人市民とのコミュニケーションやサービスの向上について、啓発・普及を積極的に行っていきます。



写真②